

平成 2 5 年度 学校自己評価表

(計画段階 ・ 実施段階)

9

福岡県立小倉南高等学校長

(NO 1)

学校運営計画				評価		
学校運営方針		志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましく生き抜く生徒の育成を図ることを教育活動の基本とする。				
昨年度の成果と課題		本年度重点目標	具体的目標			
組織的・計画的指導の推進により一応の成果がみられた。更なる進学体制の充実を目指して、主任主事を核とした校務運営の充実を図り、学年やクラスがそれぞれ到達目標を明確に掲げ、具体的かつ統一的な実効性のある教育活動を展開できた。また、今年度も教育活動内容を迅速に分析・検証・点検し、系統的、組織的指導体制の確立を目指す。生徒一人一人の進路実現に向け、創意工夫に充ちた学習指導や生徒指導を目指した教員の指導力向上、効率的な学校運営等、学校力向上に努め、保護者及び地域社会により一層信頼される学校づくりを推進する。		自主的学習態度の育成と学力の向上	授業時数の確保及び学力向上を図り、進学体制のより一層の充実のための1年次における特進クラスの設置、2年次より希望進路に応じた類型の設置及び授業改善研修の活性化による教科指導力の向上を目指す。			
		英語コースの特進化を推進し、英語コースの活性化につなげる。	英語コースの活性化に向けて、より効果的で特色ある教育活動の展開と教育関係機関(中学校、大学・国際教育機関等)との連携強化に努める。			
		進路目標達成に向けての指導体制の強化と指導内容・方法の改善・充実	進路意識の早期確立と意欲の向上を図るとともに、長期休業中における集団学習会、進学セミナー実施等、進路目標達成のために効果的課外授業を実践する。			
		学校行事の精選を図り、主体的に取り組む態度の育成	学校行事の精選を図るとともに、学習活動への意欲的・自主的態の育成のための生徒会や生徒を主体とした学校行事(体育大会、文化祭等)の充実に取り組む。			
		人権・同和教育を推進すると共に学校の教育活動全体を通じた道徳教育の充実	生徒の人権意識の高揚と人間尊重の精神の涵養。			
分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度の主な課題
企画部	・校内の円滑な行事運営に努める。	他分掌と連携し、校内の円滑な行事の運営に努める。	行事・儀式等の円滑な運営のための企画・立案と各分掌との調整に努める。			
	・ P T A 活動の活性化を図る。		学校要覧・学校案内等の内容充実を図り、効果的広報活動を推進する。			
教務部	・自宅学習時間 (1日平均) 1年：120分 2年：140分 3年：160分	確かな学力の育成を図る。	1学年特別進学クラスにおいて、顕著な学力の伸長を達成するために、より効果的な教育活動を展開する。			
			進路指導部と連携し、2学年及び3学年において進路希望に応じた類型を設置し、より一層の学習効果を図る。			
			生徒、教員ともにチャイム席を遵守し、授業時間の確保に努める。			
			学力向上に向けて、評価のあり方を見直すとともに、シラバスの有効活用を図る。			
	・出席率 1年：99.5% 2年：99.0% 3年：98.5%	生活指導の充実と授業規律の確保に努める。	学習・生活指導の充実を図るために、ライフレポートの効果的活用を努める。			
	出席率の向上に努める。	出席統計と学習時間の統計を毎月提示し、効果的活用を努める。				

分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
生徒指導部	基本的生活習慣目標 ・課外出席率 97.0 % ・授業出席率 99.0 % ・「あいさつ運動」 各学期毎 3 日間	生徒の「自己指導能力」 の育成を基本として、基 本的生活習慣を確立させ、 「時を守り、場を清め、 礼を正す」の精神を育成 する。 いじめの撲滅を推進す る。	社会規範・校則の遵守の精神の涵養と自己指導能力の育成に努める。		
			「いじめ防止・撲滅」に対する全職員・生徒の意識の高揚を図るとともに、「いじめの早期発見・早期対応」体制の整備・充実に努める。		
			職員、生徒、保護者が一体となって「あいさつ運動」の取組を推進する。		
			生活指導の徹底を図るために、毎月「生活指導強化週間」を設ける。		
・部活動目標加入率 75.0 % ・県大会出場 運動部 25 文化部 4 ・九州 3 ・全国 1	生徒の自主・自律性を 涵養するために生徒会活 動・部活動を活性化する。	体育大会及び文化祭の組織改革を含めた活性化方策を作成する。 挨拶、ボランティア、学校生活等の活動において、生徒会及び部活動の果たす役割及び活性化方策について具体策を講じる。 部活動成績の掲示により、加入率、活動意欲の向上を図り、部活動の活性化を図る。			
進路指導部	・一学年 (1月進研模試) 総合3教科 50.0 ・二学年 (1月進研模試) 総合3教科 48.0 文系3教科 48.5 理系3教科 47.5 ・三学年 (進学実績) 国公立大学 75 人以上 (AO・推薦 40 人以上) (一般合格者 30 人以上) センター受験 80 % (うち二次受験者 65 %) 四年制大学進学率 65 %	<教科指導体制確立> 進路実現のための実力養成を目的とした、教科指導計画の作成とその実践 <進学体制の確立> 3年間を通じた進学指導の実践により四年生大学進学率 65%の達成を目指す <進路意識の確立> 新南十字(ネサソクロス)プランの実践による、適正な進路希望の早期確立	センター試験受験まで理系5教科7科目・文系6教科7科目(文系一部の4教科4科目)を軸とした、全員必修の時間割を実施する。		
			年間3回の外部模試では成績上位者を掲示し、進路意識の高揚と学習意欲の向上を目指す。		
			長期休業中の課外及び土曜講座の年間実施日数は長期休業中課外(25日～30日間)、土曜講座(月2回程度)を確保する。		
			発展課外は、それぞれの教科実力上位者による発展的内容とし一年次より継続的に実施する。		
			課外(土曜講座含む)の出欠統計は、上位クラスを毎月5日までに掲示することで出席率の向上を図る。		
			夏季・秋季・冬季休業中にキャリア教育・集団学習会を実施し、進路意識の高揚と学習指導の充実による学力向上に取り組む。		
保健部	・保健室利用者数の把握 ・保健だよりの定期的発行 ・清掃に関わる経費の削減、特にゴミ減量についての啓蒙 ・生徒情報の把握に努め、学期に1回情報確認の会議を開催する。	生徒及び職員の心身の健康維持増進を図り、事務室と連携し、校内施設の安全管理などにも配慮する。 校内美化活動を推進し、美化意識の高揚に努め、清掃割、ゴミの処理、減量について改善立案する。また、施設の安全改修に努める。 教育相談活動を積極的に進める。特に、教育相談委員会、生徒支援活動をより拡張して推進する。	保健室利用状況を関係職員で情報共有し、生徒の心身の健康維持増進に役立てる。必要に応じて、専門医等との連携を図る。		
			生徒保健委員会の活動を活性化させる。 美化委員会によるゴミ集配所の管理徹底を図る。		
			生徒については、委員会活動を活性化し、職員については日常的に掃除監督の徹底を図る。月1回の大掃除を充実させる。		
			大掃除については、総合学習に位置づけられていることを確認し、美化意識高揚のための事業をより浸透させる。		
			学年・担任・保健室など生徒支援に関わる校内間の情報共有、協議を学年会議、職員会議、教育相談委員会、生徒特別支援チーム等を通して図る。		
			保護者・専門機関との連携をすすめ、より良い生徒支援を推進する。		

分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
研修部	研修による指導力の向上	授業研修会を実施する。	公開授業旬間を設けるとともに、各教科の授業研修会を実施し、教科指導力の向上を図る。		
		授業アンケートを年間2回実施する。	授業評価アンケートの結果をもとに、教科会議による情報の共有や反省を行うことにより、わかる授業の実践を図る。		
		校内外の研修を充実させる。	校内研修を充実させるとともに、積極的な校外研修への参加を促し、また研究紀要等の発行により、教育活動の活性化を図る。		
		研修部通信を定期的に発行する。	有益な教育情報を共有するために研修部通信を発行し、教育活動の活性化と教職員間のコミュニケーションを図る。		
	読書活動の活性化	選書会議を実施する。	昨年度まで文書回覧で行っていた選書を、研修部をはじめとする教職員で会議を実施することにより、より適切で偏りのない選書を行う。		
		図書委員会を活性化させる。	図書委員によるイベント等を通して図書委員会の活性化を図り、また読書活動の活性化に発展させる。		
		読書数増加に取り組む。	年間読書数（貸出数）を昨年度の6,381冊を大幅に上回るよう、図書便りのさらなる充実やその他企画等を実施する。		
		図書館をコンピューター化する。	平成26年度4月から蔵書管理や貸出・返却手続きをコンピューター処理できるよう、準備を進める。		
情報部	学校情報の公開と情報管理体制の構築	ホームページ更新 月1回以上	ホームページの更新を月に1回は行い、保護者・地域・同窓会・中学生への情報公開を活発化する。		
		職員研修 年間2回以上	職員のニーズや県の取組みに合わせた内容の職員情報研修会を企画し、実施する。年間2回以上の実施を目指す。		
	危機管理体制の整備・強化	情報機器の点検 学期に1回	情報機器の点検を学期に1回は実施し、管理を徹底する。また、ICT環境のより一層の充実を目指す。		
人権・同和教育推進委員会	生徒の活動に関わる領域	就学・修学保障のとりくみ	経済的にきびしい生徒への支援（奨学金等の案内）を行う。 校納金の納入漏れを無くすために定期的に家庭に連絡する。		
			「障害」のある生徒・帰国子女等への支援を行う。		
		進路保障のとりくみ	「言わない・書かない」の主旨を十分に理解させる。 奨学金等の進学に向けての支援を行う。		
		自主活動に対する支援	部落研活動の支援を行うため地域や家庭と連絡しながら活動に結びつける。		
	朝文研活動の支援を行う。また、外国籍の家族を持つ生徒へのアイデンティティ教育の在り方を考察する。 「障害」のある高校生の集いの支援を行う。				
	人権・同和教育特設授業の充実	特設授業の資料などを整理・検討をする。			
	職員の活動に関わる領域	特設授業の充実	事前・事後の学習会を充実させる。視聴覚教材を積極的に活用する。 「障害」者問題については発達障害などを取り込んだ授業展開とする。		
		職員の校内研修・校外研修の取り組み	全職員参加を目指す（年度当初に参加を募り、9月に参加できなかった職員へ追加募集を行う）。校内研修会は年2回の実施を効果的に行う。地区全体研の発表者については輪番表に基づいて学年と教科で行う。		
広報活動の充実		研修会の案内や報告・特設授業の反省など広報活動に努める。			

分掌・学年	評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度の主な課題
一学年	1月進研模試 3教科偏差値50.0 GTZ人数 B1以上95人 うちA3以上35人 授業出席率 99.5% 課外出席率 98.0% (長期休業中、土曜講座を含む) 自宅学習時間 1日平均120分以上	基本的生活習慣の確立	挨拶の励行、適切な言葉遣いの指導、校歌指導等の徹底。 学年行事(自助と共助を学ぶ宿泊体験)を効果的に活用し、集団生活を通して社会性を養う。		
		授業規律の確立と 基礎学力の定着	チャイムからチャイムまでの授業を実施することで、授業規律を確立するとともに、小テストや週テスト、課外授業やそれらの事後指導を有効活用する。 習熟度別授業等を実施し、生徒の実態に応じた「分かる授業」を展開する。		
		将来を見据えた進路 目標の設定・進路選択	進路指導部と連携を図り、進路意識の高揚と早期進路目標の確立に努める。		
		人権意識の高揚	教育活動全般を通じて人権意識の高揚につとめる。		
二学年	授業出席率 99.0% 課外出席率 97.0% (長期休業中、土曜講座を含む) 自宅学習時間 1日平均140分以上 1月進研模試 3教科偏差値 48.0 文系 48.5 理系 47.5 GTZ人数 3教科 B1以上40人 文系 B1以上40人 理系 B2以上35人	基本的生活習慣の確立	時間厳守、出席率向上に取り組み、基本的生活習慣や規範意識を身につけさせる。		
		授業規律の確立と 基礎学力の充実	チャイムからチャイムまでの授業の徹底と学習環境の整備により授業規律の確立を図る。 習熟度別授業による生徒の能力に応じた授業の実践により、個々の基礎学力の定着と向上を図る。		
		進研模試における 数値目標のクリア	模擬試験に対する取り組みを充実させるとともに、結果を分析し、適切な進路指導を実践する。		
		将来を見据えた 進路目標の設定	進路指導部と連携し、適切な進路情報の提供と進路意識の高揚に努める。 各学期に進路面談を行い、適切な進路選択と進路目標の早期実現を図る。		
		人権意識の高揚	学校生活全般を通して、校訓の精神を自覚させるとともに、人権意識の高揚に努める。		
三学年	・授業出席率98.5% ・課外出席率96.0% (長期休業中を含む) ・1日平均160分 ・大学進学結果 国公立大学75人 (AO・推薦 40人以上) (一般合格者35人以上) センター受験80% (二次受験65%) 4年制大学進学率 65%	進路目標達成に向けた 教育活動の実践および自 主・創造・親愛の精神と 愛校心の育成を目指す。	進路指導部との連携を強め、進路意識の高揚を図る。また適切な進路情報の提供や個別面談を重視し、生徒一人一人の第一希望進路達成のため全力を尽くす。		
			習熟度別クラス編成と習熟度別授業の実施、放課後学習(含遅刻・欠席者指導)の充実等により、学力の向上を図る。		
			進路説明会や学年通信等を利用し、進路情報を適切に保護者に提供し、学校・生徒・保護者が一体となった進路指導の実践に取り組む。		
			校外模試の結果を迅速・適切に分析し、生徒の実態把握と目標達成のための具体策を講じる。		
			課題を抱えた生徒との関わりや保護者との連携を密にする。 学校生活全般を通して、「自主・創造・親愛」の精神を自覚させるとともに、最上級学年としての自覚を促す。		